

『吉田城君を偲んで』

都立日比谷高校・昭和44年卒
34ルーム有志一同

*

吉田城先生が逝去されて間もなくの2005年7月、東京都立日比谷高校で先生のクラスメートだった34ルームの方々によって一冊の文集が編纂され、吉田先生のご家族の元に届けられた。『吉田城君を偲んで』と題されたこの追悼集（執筆：日比谷高校・昭和44年卒34R有志一同 編纂：南部孝治、Kubovcik・田中・慶子 2005年7月）には、インターネット上の同窓生交流の場「34R学級日誌」に寄せられた追悼の言葉の数々や、追悼集のために新たに寄せられた文章をはじめ、吉田先生が生前に参加されていた「34R学級日誌」での交流の記録、さらには、高校時代にクラス内で執筆されていたというグループ日誌「ファンタシー」に寄稿された先生ご自身の文章などが収録されている（以下にその一部を掲載）。編集の都合により、『吉田城君を偲んで』として編まれた全ての言葉を掲載することは叶わなかったが、多くの参加を得て編纂されたこの手作りの文集からは、高校時代から変わらずに続いてきた友情の豊かさとともに、早すぎた吉田先生の死を悼む思いが、真っすぐに伝わってくる。

以下に掲載する追悼文のうち、武藤、吉國、小林（伊東）各氏の文章は『吉田城君を偲んで』からの転載であり、尾木原氏の手になる文章は、当研究会で吉田城先生追悼特別号を編纂するにあたって新たにお寄せいただいたものである。同追悼号への惜しみない協力をお約束下さり、『吉田城君を偲んで』からの転載をご快諾下さった34ルーム同窓の皆様に、心から感謝の意を表したい。

小黑昌文 記

*